

新入生オリエンテーションキャンプがその後の大学生活に与える影響 — キャンプの目標達成度との関連 —

山本 信太郎 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード: 新入生オリエンテーションキャンプ、大学生活、目標達成度、大学適応

1. 序論

近年、大学生における留年や不登校、中途退学などの問題が取り上げられている²⁾。これらの問題から大学側も学生への大学早期適応を図るための取り組みが必要であると考えられる。野外教育の分野では大学早期適応の為、組織キャンプの形態をとったオリエンテーションプログラム「新入生オリエンテーションキャンプ」が実施され、その結果が報告されている¹⁾。新入生オリエンテーションキャンプにより大学早期適応が可能になればその後の大学生活に大きく影響すると考えられる。

そこで、本研究は、新入生オリエンテーションキャンプがその後の大学生活にどのような影響を与えているのか明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【被験者】2009年度B大学新入生オリエンテーションキャンプに参加した336名(男子238名、女子98名)である。

【調査用紙】1) キャンプの目標達成度: 新入生オリエンテーションキャンプにおける目標達成度(生活、環境、仲間、技術)を問うアンケートを実施。2) 大学適応度: 大久保²⁾が作成した29項目4因子からなる学校への適応感尺度を用いた。調査はキャンプ18ヶ月後に実施。3) キャンプについてのアンケート: 筆者が独自に作成した5項目(自由記述を含む)からなるアンケートを実施。

3. 結果及び考察

1) キャンプの目標達成度: 「とても達成できた」、「どちらかといえば達成できた」と回答した学生は【生活】において91.0%、【環境】において82.1%、【仲間】において89.6%、【技術】において83.5%という結果が得られた。各項目80%以上の学生が目標を達成できたと回答した。キャンプは学生にとって目標を達成できるプログラムであったと考えられる(表1)。

	とても達成できた	どちらかといえば達成できた	どちらかといえば達成できなかった	まったく達成できなかった
	5	4	3	2
生活	54.5%(162)	36.4%(108)	7.1%(21)	2.0%(6)
環境	37.7%(112)	44.4%(132)	15.5%(46)	2.4%(7)
仲間	45.8%(136)	43.8%(130)	9.1%(27)	1.0%(3)
技術	40.4%(120)	43.1%(128)	15.2%(45)	1.0%(3)

2) 学校への適応感: 「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した学生は、居心地の良さ、課題・目的の存在では80%以上、被信頼・受容感では75%以上、劣等感の無さにおいては50%以上であり、キャンプが学校への適応感に影響を与えたと考えられる。劣等感の無さにおいては、キャンプ18ヶ月後であったため、劣等感は約半数

の学生が感じていると考えられる(表2)。

下位因子(項目数)	M	SD	N
居心地の良さ(10)	32.4	5.9	226
課題・目的の存在(7)	22	4.4	226
被信頼・受容感(6)	15.3	3.5	226
劣等感の無さ(6)	17.5	3.3	226
全体得点(29)	87.1	11.9	226

3) キャンプについてのアンケート: 「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答した学生は①:71.2%、②:94.7%、③:82.7%、④:76.1%という結果が得られた。キャンプに対しての意識の高さや、満足度は高かったと考えられる。またキャンプが現在の大学生活に役立っている学生の割合が高いことからキャンプと大学生活は関連していると考えられる(表3)。

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
	4	3	2	1
①	38.5%(87)	32.7%(74)	24.8%(50)	4.0%(9)
②	59.3%(134)	35.4%(80)	4.4%(10)	0.9%(2)
③	50.0%(113)	32.7%(74)	12.8%(29)	4.4%(10)
④	35.8%(81)	40.3%(91)	14.6%(33)	9.3%(21)

質問項目 ①意欲的に新入生オリエンテーションキャンプに取り組んだ
②新入生オリエンテーションキャンプで友人ができた
③新入生オリエンテーションキャンプをやったよかったと思う
④新入生オリエンテーションキャンプが今の大学生活に役に立っている

4) キャンプと学校への適応感の関連: 学校への適応感得点とキャンプについてのアンケート得点における相関分析を行った(表4)。

	①	②	③	④
学校への適応感得点	0.456***	0.420***	0.408***	0.417***

質問項目 ①意欲的に新入生オリエンテーションキャンプに取り組んだ
②新入生オリエンテーションキャンプで友人ができた
③新入生オリエンテーションキャンプをやったよかったと思う
④新入生オリエンテーションキャンプが今の大学生活に役に立っている

「友人関係は、学校への適応感に強い影響力をもっている²⁾」ことから学校への適応感と友人関係は大きく影響し、キャンプで友人ができることは、大学適応に大きく影響していると考えられる。また、キャンプが大学生活に役立っていると認識している割合は高く、キャンプは学校への適応感に大きな影響を与えていると考えられる。感想文からも、「大学に溶け込みやすくなった」、「スムーズに学校生活をはじめることができた」など大学生活への早期適応とみれる記述も見られた。

4. まとめ

新入生オリエンテーションキャンプとその後の学校への適応感には関連しており、キャンプに取り組む姿勢が意欲的であれば、その後の学校適応は高いことが明らかになった。今後は不適応感を抱く要因についても検討する必要がある。

5. 参考文献

- 1) 黒澤 毅(2006): 新入生オリエンテーションキャンプの効果、びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要 第3号 59-67
- 2) 大久保 智生(2010): 青年の学校適応に関する研究、ナカニシヤ出版